

むし歯と歯周病の予防・管理とPMTC

むし歯や歯周病の原因は、歯垢（プラーク）と呼ばれる細菌の塊です。細菌たちは自分が作り出したネバネバした物質で膜をつくり、その中で増殖しながら歯の表面にしっかりと定着しています。微生物が自分で作り出した物質を保護膜にしながら固形物に付着して集団生活していることを「バイオフィルム」といいますが、歯垢（プラーク）もバイオフィルムです。

むし歯や歯周病を予防するためには、原因となっている歯垢（プラーク）を取り除くことが重要です。歯磨きなどのセルフケアはもちろんのこと、スクレーピング、ルートプレーニング、PMTCなど専門家による処置とケアが必要です。

Q どうして細菌バイオフィルムは、専門家でないとならぬと除去できないの？

バイオフィルムの特徴は、粘着性が強いことと、増殖する菌の力で薬剤が通らないことです。歯垢も歯ブラシで磨く程度では完全に落とすことができませんし、抗菌剤だけで除去することもできません。そこで開発されたのが『PMTC』です。

歯や歯肉を傷つけない特殊な器械を使い、バイオフィルムを完全に落とすことで歯面をツルツルに磨き、歯垢が付きにくい状態にします。計画的にPMTCの処置を受けることで、むし歯や歯周病を効果的に予防することができます。

Q PMTCは歯周病の進行を防ぎますか？

歯周病の原因は、歯肉にかくれて見えない部分（歯周ポケット）の歯垢や歯石で、空気が嫌いな細菌の塊です。医院では、スクレーピングやルートプレーニング（歯の根をツルツルにする処置）でポケット内の歯垢や歯石を除去し、PMTCでバイオフィルムのないきれいなお口にします。

しかし「改善したからこれで終わり」ではありません。再発防止には生活習慣改善も必要です。定期的なPMTCと専門家による指導を受けて、お口の環境悪化を防ぎましょう。

Q 洗浄したあとフッ素を使うこともありますが、それはなぜですか？

フッ素には、再石灰化（溶け出したカルシウムやリンが歯の表面に戻る作用）を促進する働きがあります。歯の成分の結晶を緊密にして歯を強くする働きもあります。

また、フッ素にはバイオフィルムに浸み込んでいく作用があります。薬剤には強いバイオフィルムも、フッ素には弱いのです。バイオフィルムを除去したあとにフッ素を塗れば細菌の働きが抑制され、予防効果がさらに高まります。

KOMIYA DENTAL NEWSLETTER

6 2005年
月号



6月には、歯の衛生週間があり、皆さんの関心が高まって歯科医院は混み合う時期です。そんな中、かねてより当院に来院されている（継続して予防につとめている）患者さんは、毎日が「むし歯予防デー」、毎週が「歯の衛生週間」であることをよく理解されていると確信できます。スタッフ一同、皆様のお力になれてまことに光栄です。

近年の予防歯科の研究では、『バイオフィルム』を取り去ることが『キーワード』のひとつです。かつては、むし歯、歯周病の原因となる細菌が含まれている「歯垢」を歯ブラシで取るのが、歯の清掃と考えられていました。しかし今では、「バイオフィルム」を様々な器械を使って除去する必要があるとされています（別頁参照）。身近な例として、キッチンの流し周りやお風呂の排水口のヌメリも、バイオフィルムのひとつですが、洗浄剤だけではなかなかとれず、ブラシやスポンジを使ってお掃除しますよね。予防のための歯の清掃には、患者さん自身で行う『セルフ・ケア』に加え、医院での定期的な『プロフェッショナル・ケア』が不可欠なのです。

治療が終わられた方も、ぜひ継続してケアを受けられることをお勧めします。予防的プロケアは、自覚症状が出てからの通院に比べ、治療への恐怖心も軽く経済的にもはるかに有効です。

毎月保険証の提示に御協力頂きありがとうございます。
このニューズレターは当院のオリジナルで毎月発行しています。

☆診療日変更のお知らせ☆

7月15日(金)～18日(月)は連休です。



☎ 03-5699-8888

〒125-0041 葛飾区東金町1-45-2 ハヤシ駅前ビル2F

「インターネット予約確認サービス URL」 <http://www.dent-s.net/komiya/>
ホームページアドレス <http://www.wahaha.gr.jp> E-mail dental@wahaha.gr.jp